

2024年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年9月1日～2024年8月31日)



1 階部分岡崎建設㈱本社



岡崎建設株式会社

発行日：2024年9月30日

目 次

1. 会社の概要	・・・	P 2
2. 主な環境負荷の実績	・・・	P 2
3. 対象範囲（認証・登録範囲）	・・・	P 3
4. 推進組織図及び役割・責任・権限	・・・	P 3
5. 環境経営方針	・・・	P 4
6. 環境経営目標	・・・	P 5
7. 環境経営計画	・・・	P 6
8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と その評価、並びに次年度の環境経営計画	・・・	P 7
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無	・・・	P 8
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	・・・	P 10

1. 会社の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

岡崎建設株式会社
代表取締役 岡崎 淳

(2) 所在地

本 社 兵庫県三田市駅前町19番14号
資 材 倉 庫 兵庫県神戸市北区道場町日下部

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 総務部課長 岡崎 美夏
環境管理担当者 部長 野上 伸二
連絡先 TEL：079-563-1333
FAX：079-562-3232

(4) 事業の概要

建築工事業

(5) 事業規模

年間売上高 822百万円（2023/9月～2024/8月）

	本社	資材倉庫	合計
総従業員 2023.9.1現在	11人	0人	11人
延べ床面積	107㎡	83㎡	190㎡
敷地面積	608㎡	808㎡	1,416㎡

(6) 建設現場等の概要（2023/9～2024/8）

元請工事 250件
下請工事 0件

(7) 会計年度 9月～翌年8月

2. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	全社排出量		
		2021年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	43,715	38,366	38,037
廃棄物排出量	トン	77.823	52.724	179.546
一般廃棄物	トン	0.293	0.266	0.196
産業廃棄物	トン	77.53	52.458	179.35
水使用量 ※	m ³	-	-	-

使用した電力の二酸化炭素排出係数：0.318 kg-CO₂/kWh（関西電力、2019年度の調整後排出係数）

※水道料金はビルの賃貸料金に含まれており、量水計の設置がないため使用量は不明。

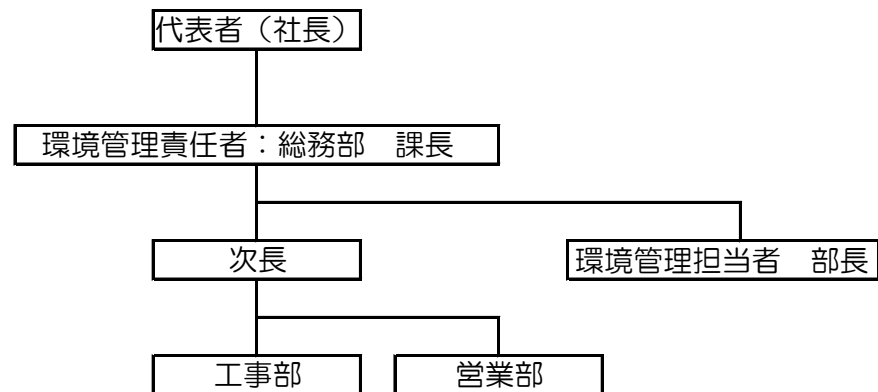
3. 対象範囲（認証・登録範囲）

事業活動：建築工事業、不動産事業

対象事業所：本社、資材倉庫

4. 推進組織図及び役割・責任・権限

【推進組織図】



【役割・責任・権限】

	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者(社長)	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限をもつ ②環境経営方針を策定し、従業員に周知させる ③環境経営レポート及びEA21文書類を承認する ④資源（人・もの・金）の用意をする ⑤エコアクション21全体の取組状況に関し評価、見直し・指示を実施する
環境管理責任者	①エコアクション21建設業向けガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境面の実績を向上させる ②上記の結果を社長に報告する ③環境経営レポートEA21文書類を作成する ④環境委員会の委員長としてEMS全般の舵取りを行い、実行を推進する
環境管理担当者 部長	①環境への負荷の自己チェックを実施する ②環境への取組の自己チェックを実施する ③環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する
次長	①自部門の環境経営目標、環境経営計画の達成と実績の把握を行う ②環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する ③自部門に関連する環境関連法規制等を順守する ④自部門の教育・訓練を実施する ⑤社内外の環境情報の収集と伝達をする ⑥自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
工事部	①作業所におけるEA21実行責任者を兼ねる ②作業所の環境経営目標、環境経営計画の達成と実績の把握を行う

5. 環境経営方針

岡崎建設株式会社 環境経営方針

岡崎建設(株)は事業活動から生じる環境影響に配慮し、環境保護に努め、持続可能な地域社会づくりに貢献し、花と水と緑の豊かなまち三田を実現します。

1. 当社は下記のとおり、事業活動に伴う環境負荷の低減、並びに工事施工時における環境配慮に努めます。
 - (1) 電力及び燃料の使用による二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 水使用量の削減
 - (3) 廃棄物排出量の削減
 - (4) 環境に配慮した工事の推進
2. 関係する環境法規等並びに地元との約束等を遵守します。
3. 環境経営の継続的改善を図ります。
4. 本方針を全従業員及び協力会社社員に周知し、社外へも公開します。

__は取組の重点分野を示す

制定日：2022年 5月 20日
岡崎建設株式会社
代表取締役 岡崎 淳

6. 環境経営目標

No.	環境経営目標	基準年度 2021年度実績		2023年度目標		2024年度目標		2025年度目標	
1	電力使用量の削減 (本社) ※1 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 0.318	8,692	kWh	-2%	8,518	-3%	8,431	-4%	8,344
		2,764	kg-CO ₂		2,709		2,681		2,653
2	電力使用量の削減 (工事現場) ※1 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 0.318	12,353	kWh	-2%	12,105	-3%	11,982	-4%	11,858
		3,928	kg-CO ₂		3,849		3,810		3,771
3	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.32	11,629	ℓ	-2%	11,396	-3%	11,280	-4%	11,164
		26,979	kg-CO ₂		26,439		26,170		25,900
4	自動車燃料使用量の削減 軽油 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.58	3,183	ℓ	-2%	3,119	-3%	3,088	-4%	3,056
		8,212	kg-CO ₂		8,048		7,966		7,884
5	二酸化炭素排出量 の削減 (上記の合計)	41,884	kg-CO ₂	-2%	41,046	-3%	40,627	-4%	40,209
6	産業廃棄物の削減	77.53	t	-3%	75	-4%	74	-5%	73
7	一般廃棄物排出量 の削減	293	kg	-4%	281	-5%	278	-6%	275
8	水使用量の削減 ※2	—	—	適正管理		適正管理		適正管理	
9	省エネ設備の提案・実施 件数の増加 ※3	90	%	92(%) 以上		95(%) 以上		95(%) 以上	

(注1) 化学物質は使用していないため、目標に設定していない。

(注2) 灯油は使用量が少ないため、目標に設定していない

※1 電力の二酸化炭素排出係数：0.318 kg-CO₂/kWh (関西電力、2019年度の調整後排出係数)

※2 水使用量は把握できないため目標は定めず取組を決め、その取組状況を定期的に確認している

※3 工事における省エネ提案・実施件数を増加させる (基準年度実績は想定)

7. 環境経営計画

No.	環境経営目標	環境経営目標の達成手段	スケジュール					実施体制 (責任者)
			全期	春期	夏期	秋期	冬期	
1	電力使用量の削減 (本社) (CO ₂ 排出量削減)	1.空調機の温度設定(夏期:28℃、冬期:20℃)			○		○	総務部
		2.昼休みの消灯 3.不要照明の消灯	○					
		4.離席時のパソコン電源OFF	○					
2	電力使用量の削減 (工事現場) (CO ₂ 排出量削減)	1.空調機の温度設定(夏期:28℃、冬期:20℃)			○		○	部長
		2.昼休みの消灯 3.不要照明の消灯	○					
3	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					総務部
		3.法定速度の順守 4.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
4	自動車燃料使用量の削減 軽油 (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					総務部
		3.法定速度の順守 4.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
5	二酸化炭素排出量の削減	・NO.1～4 に従う						
6	産業廃棄物の削減	1.建設廃棄物の分別徹底	○					部長
		2.不法投棄、不法処分リスクの無い処理業者への委託	○					
		3.保管基準の順守	○					
7	一般廃棄物排出量の削減	1.リサイクルを意識した一般ごみの分別	○					総務部
		2.コピー紙の裏紙使用	○					
		3.詰め替え容器のある商品の選択	○					
8	総排水量の削減	1.水の流しっぱなしの防止	○					総務部
		2.節水ステッカー貼付による節水意識の向上	○					
9	環境配慮が実施された 工事件数を増やす (省エネ設備件数が4項目以上を100%とする)	省エネ設備の対象項目は下記の通り A) 高効率給湯器(エコ給湯器等)設置台数(総数) B) 節水トイレの設置(総数) C) 断熱窓の設置(台数) D) 高断熱浴槽の設置(台数) E) 高断熱壁の設置(箇所数)	○					部長

8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営計画

No.	環境経営目標 (環境経営方針との関連)	環境経営計画に基づき 実施した取組内容	評価 ※2	環境経営計画の実績 (2023年9月～2024年8月)				次年度の 環境経営計画
1	電力使用量の削減（本社） (CO ₂ 排出量削減)	・昼休みの消灯	◎	単位	kg-CO ₂		・各自が節電を意識していた	・現在の取組を継続する
		・空調設定温度の励行	△	目標	2,681			
		・部分消灯及びこまめな消灯	◎	実績	2,898			
		・離席時のパソコンOFF	○	達成率	93	%		
				達成状況 ※3	○			
2	電力使用量の削減（工事現場） (CO ₂ 排出量削減)	・空調設定温度の励行	△	単位	kg-CO ₂		・各自が節電を意識していた	・ unnecessary部分及びこまめな消灯を徹底する
		・部分消灯及びこまめな消灯	△	目標	3,810			
				実績	2,945			
				達成率	129	%		
				達成状況	○			
3	自動車燃料使用量の削減（ガソリン） (CO ₂ 排出量削減)	・急発進の防止	◎	単位	kg-CO ₂		・エコドライブの意識が浸透した	・自覚教育などを通じて、更に意識を徹底させる
		・アイドリングストップ	◎	目標	26,170			
		・相乗りの徹底	◎	実績	19,828			
		・適正空気圧の確保	○	達成率	132	%		
				達成状況	○			
4	自動車燃料使用量の削減（軽油） (CO ₂ 排出量削減)	・急発進の防止	◎	単位	kg-CO ₂		・基準年度より軽油使用車 が一台増え、ガソリン使用車 が一台減っている。	・自覚教育などを通じて、更に意識を徹底させる
		・アイドリングストップ	◎	目標	7,966			
		・相乗りの徹底	◎	実績	11,405			
		・適正空気圧の確保	○	達成率	70	%		
				達成状況	×			
5	二酸化炭素排出量の削減	No.1～No.4 に記載		単位	kg-CO ₂		No.1～No.4 に記載	No.1～No.4 に記載
				目標	40,627			
				実績	37,076			
				達成率	110	%		
				達成状況	○			
6	産業廃棄物排出量の削減	・建設現場での分別強化	○	単位	t		・産業廃棄物が出る工事が多かったが、リサイクル率は良くなった	・更に分別を徹底してリサイクル率を上げる
		・金属くずの分別ボックス新設	△	目標	74			
				実績	179.35			
				達成率	41	%		
				達成状況	×			
7	一般廃棄物排出量の削減	・コピー用紙の裏紙使用	◎	単位	kg		・ゴミの分別、裏紙使用が当たり前になった	・現在の取組を継続する
		・一般廃棄物分別の徹底による再資源化の推進	◎	目標	278			
				実績	196.4			
				達成率	142	%		
				達成状況	○			

8	総排水量の削減	・水の流しっぱなしの防止	◎	単位	m ³		・節水を常に心がけている	・現在の取組を継続する
		・節水ステッカー貼付	◎	目標	—			
		・節水意識の向上	◎	実績	—			
				達成率	—	%		
				達成状況	—			
9	省エネ設備の提案・実施件数の増加 ※1	・工事における下記の環境配慮活動の提案・実施		単位	%		・工事における省エネ提案台数を増加させる ・高効率給湯器（エコ給湯器等）設置台数・節水トイレの設置、断熱窓の設置 ・高断熱壁の設置	・工事における省エネ提案を積極的にする
				目標	95			
				実績	100			
		(1)高効率給湯器	×	達成率	105	%		
		(2)節水トイレ	×	達成状況	○			
		(3)断熱窓の設置	◎					
		(4)高断熱浴槽の設置	×					
		(5)高断熱壁の設置	×					
実施体制		・実施体制（環境管理責任者、環境委員会並びに各目標ごとに設定された実施責任者）は有効に機能しており、これを継続する						

※1 省エネ設備の提案・実施件数の増加；評価ポイント/項目件数＝実績評価(%)（4/4＝100%）

※2 評価；◎よくできた ○ほぼできた △あまりできなかった ×全くできなかった

※3 達成状況：○目標達成 ×目標未達成

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

（１）当社に適用される環境関連法規等の遵守状況

下記の通り環境関連法規及び条例等を事業所、建設現場ともに遵守しており、違反はありません。また関係当局より違反等の指摘も過去5年間ありません。

順守評価者：岡崎美夏 順守評価日：2024年8月31日

適用される法令等		主な遵守すべき内容 ※	遵守状況
1	廃棄物処理法	処理業者との適正な契約並びに業者の許可証有効期限の確認	遵守
		マニフェスト伝票の管理（法定記載事項、照合確認、5年間保存）	遵守
		廃棄物置場の表示と保管基準の遵守	遵守
		マニフェスト交付状況の知事への報告（毎年6月30日までに）	遵守
2	建設リサイクル法	特定建設資材の再資源化（コンクリート、廃木材、アスファルト等）	遵守
		元請業者の発注者への再資源化に関する書面報告、並びに再資源化実施状況の記録作成と保存	遵守
		都道府県知事への事前届出の提出（工事着手の7日前まで）	遵守
3	騒音規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、85dB(A)を超えないこと	遵守
4	振動規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、75dB(A)を超えないこと	遵守
5	大気汚染防止法	解体等工事の受注者は、工事実施前に、特定工事に該当するか否かの調査を行い、発注者にその調査結果を記載した書面を交付して説明すること	遵守
		特定工事の発注者又は自主施工者は、作業開始日の14日前まで（兵庫県は工事開始日の7日前まで）に知事に届出	遵守
		解体工事施工時に掲示板を設け、調査結果を掲示	遵守

6	労働安全衛生法 (石綿障害 予防規則)	作業場には、石綿等の使用の有無に関する調査終了日、調査方法、結果の概要を掲示	遵守
		石綿等の除去作業、封じ込め・囲い込みの作業等は事前に所轄労働基準監督署長に提出	遵守
		作業場所の隔離、ろ過集じん方式の集じん・排気装置の使用などの処置	遵守
		作業場以外の立入禁止とその表示	遵守
7	建築基準法	居室の種類及び換気回数に応じて、内装仕上げに使用するホルムアルデヒドを発生する建材の面積制限	遵守
		居室を有する建築物へのしろあり駆除剤、クロルピリホスの使用禁止	遵守
8	建築物省エネ法	特定建築物を新築、増築若しくは改築又は特定建築物以外（政令で定めるもの）の建築物を増築するときは建築物のエネルギー消費性能基準に適合させる	遵守
		一定規模以上（300m ² ）の建築物の新築、増改築の工事着手日の21日前までに建築物のエネルギー消費性能の確保のための構造及び設備の計画を所管行政庁に届け出る	遵守
9	消防法	防火管理者の専任（工場・倉庫・事務所は50人以上）及び所轄消防署長への届出	該当なし
		消火設備の定期点検、消火器の有効期限少量危険物の届出、点検	遵守
10	フロン排出 抑制法	空調機の簡易点検（3か月以内ごと）及び廃棄後3年間までの記録保存	遵守
		・廃棄時におけるフロン類の回収依頼書又は委託確認書の交付 ・回収依頼書又は委託確認書並びに充填回収業者が交付した引取証明書の3年間保存	遵守

※ 紙面の都合のため、主要な遵守すべき内容を抜粋し、簡略的に記載しており、詳細は「環境法規制等一覧表兼遵守評価記録」で管理している

（２）環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等は過去５年間、１件も発生していません。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

見直し日：2024年9月20日

代表者：岡崎 淳

作成者：岡崎 美夏

見直しに必要な事項		環境管理責任者の報告	代表者による評価	変更の 必要性
環境経営 方針	環境経営方針に示された 環境への取組の基本的方 向は現在も適切か	環境経営方針は適切で ある	環境経営方針は変更し ない	☐ 有り ☒ 無し
環境経営 目標及び 環境経営 計画	環境経営目標・計画の達成 状況は妥当か ・課題とチャンス、・二酸 化炭素排出量削減、・廃棄 物排出量削減、・水使用量 削減、・製品・サービスの環 境性能の向上	環境経営目標及び環境 経営計画は適切である	環境経営目標及び環境 経営計画は変更しない	☐ 有り ☒ 無し
その他の 環境経営 システム	①環境負荷の大きな変化 ②法規制等の遵守状況 ③教育・訓練の実施 ④外部からの苦情や要望 ⑤実施及び運用の適切性 ⑥緊急事態への準備状況 ⑦取組の確認並びに是正処 置の状況 ⑧環境経営レポートの作成 と公表、活用状況	①まだありません ②遵守を心掛けています ③随時実施予定 ④ありませんでした ⑤実施運用できるよう動き 出している ⑥準備できている ⑦前向きに取り組んでいる ⑧活用している	その他の環境経営シス テムは変更しない	☐ 有り ☒ 無し
実施体制	実施体制は効果的であ り、変更の必要性はない か	実施体制は効果的であ る	実施体制は継続する	☐ 有り ☒ 無し
前回の代表 者指示事項 のフォロー アップ	前回同様、指示されなくとも、無駄な電気を消したりするようになり意識と行動が身につ いてきた。			
代表者の 指示事項	ムリムダムラを無くし、安心快適な職場環境づくり			
代表者の 総合評価 ※	建設業が環境に対する影響が大きい産業であることを再認識し、事業活動を推進する。			

※次年度以降への展開を重点に記載する